

経営比較分析表（令和6年度決算）

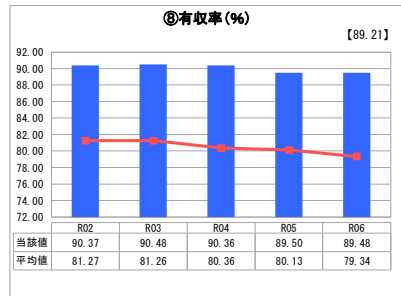
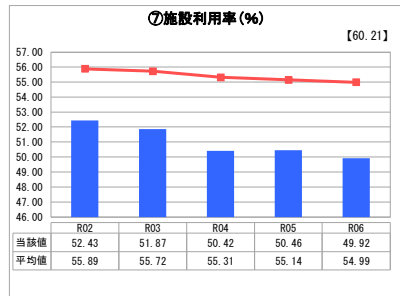
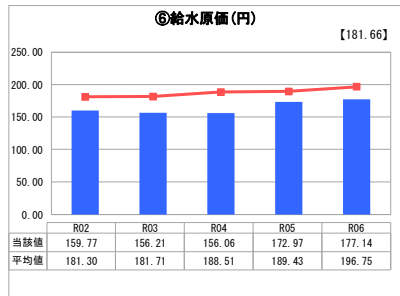
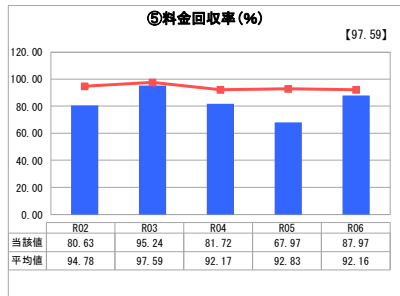
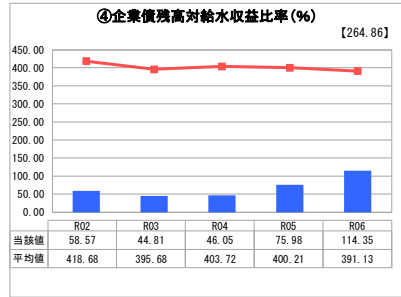
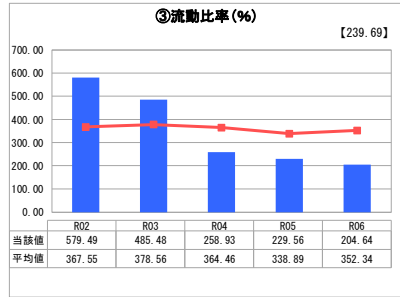
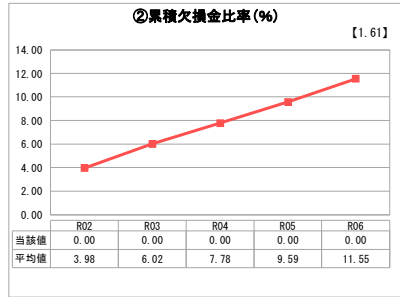
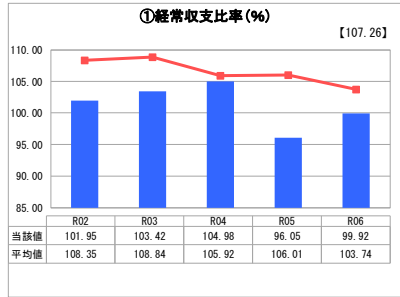
愛知県 愛西市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	81.33	99.75	3,190	

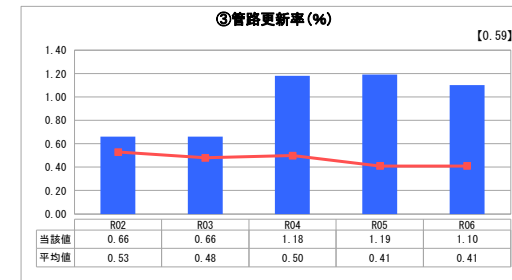
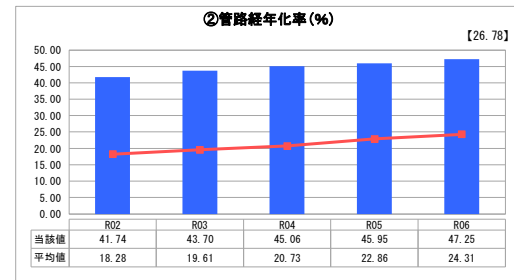
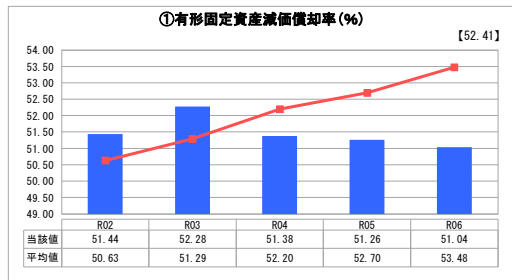
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
60,457	66.68	906.67
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
25,254	23.31	1,083.40

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
□	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【①経常収支比率、③流動比率、⑤料金回収率、⑥給水原価】
近年、給水人口の減少等により、減収傾向にあるが、令和6年度は料金改定を実施したことから、前年度よりも減少幅は小さくなっている。⑤料金回収率の増加は、料金改定と物価高騰対策で実施していた、基本料金免除事業実施期間の減によるものであり、それに比例し①経常収支比率は増加した。しかしながら流動負債が増加したため③流動比率は微減となった。⑥給水原価は、前年度より4.1円増となった。今後は経年化に伴う費用の増大と給水人口の減少が予想されるため、更なる水道料金の値上げが必要と考える。

【②累積欠損金比率】
欠損金においては、繰越利益剰余金等で補填しているため発生していない状況である。

【④企業債残高対給水収益比率】
令和5年度から新規の企業債を発行したため増加している。今後、計画的に進める水道施設（特に浄水場）の大規模な更新に伴い、更に上昇すると予測している。

【⑦施設利用率】
給水人口の減少等により、当該指標は低下傾向のため、今後の施設更新時において、能力のダウンサイジング等を検討する必要がある。

【⑧有収率】
漏水件数が増加したため、当該指標は、前年度より微減となっている。今後も、漏水の早期発見・早期修繕に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

【①有形固定資産減価償却率、③管路更新率】
近年は、管路を中心に更新を進めているものの、③管路更新率は前年度より微減であった。また、①有形固定資産減価償却率は資産の減価償却は進んでいるものの、取得資産の増加が減価償却の増加をわずかに上回ったため、微減となった。

【②管路経年率】
人員要因等により、下水道整備に併せ、支障箇所の布設替工事を重点的に取り組んでいることや、他の施設更新事業の必要が生じたことにより、当該指標は上昇している。今後も、実質的な耐用年数を迎える老朽化管路の布設替工事を、計画的に進める必要がある。

全体総括

経営の健全性・効率性を示す各指標は、平均値を下回ることが見込まれていたため料金改定を実施した。老朽化の状況を示す各指標からは、水道施設の経年化が進み、更新も進んでいないことを示しているため、水道施設の更新は計画的に取り組まなければならない。

今後は、給水人口の減少に伴う水道使用料の減収に対し、受水費の値上げや物価高騰のほか、水道施設の経年化の進行に伴う修繕・更新費用は増大することが予測されるため、令和2年度に策定した経営戦略の見直しを行い、更なる料金改定実施に向けての検討や経営基盤の強化・確立に係る取り組みと、水道施設の更新を図るため、人員配置や業務手順を見直すなど、業務改善や効率化に係る取り組みも併せて進める必要がある。